

二国間交流事業 セミナー報告書

令和5年8月31日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]

福島県立医科大学・医学

[職・氏名]

主任教授・河野 浩二

[課題番号]

JPJSBP220239001

1. 事業名 相手国: シンガポール (振興会対応機関: NUS) とのセミナー

2. セミナー名

(和文) 日本-シンガポール国際共同セミナー: 胃癌の複合がん免疫療法の発展に向けて

(英文) Japan-Singapore bilateral joint research seminar for the development of combination immunotherapy for gastric cancer

3. 開催期間 2023年7月19日～2023年7月20日 (2日間)【延長前】 年 月 日～年 月 日 (日日間)

4. 開催地(都市名)

シンガポール・Singapore

5. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

National University of Singapore・Professor・Bok Yan Jimmy SO6. 委託費総額(返還額を除く) 1,815,705 円

7. セミナー参加者数(代表者を含む)

	参加者数	うち、本委託費で渡航費または 日本滞在費を負担した場合*
日本側参加者等	7名	7名
相手国側参加者等	9名	0名

参加者リスト(様式B2)の合計人数を記入してください。該当がない箇所は「0」または「-」を記入してください。

* 日本開催の場合は相手国側参加者等の日本での滞在費等を負担した場合、相手国開催の場合は日本側参加者等の渡航費を委託費で負担した場合に記入してください。

8. セミナーの概要・成果等

- (1) セミナー概要(セミナーの目的・実施状況。第三国からの参加者(基調・招待講演者等)が含まれる場合はその役割とセミナーへの効果を記載してください。関連行事(レセプション、見学(エクスカーション)その他会合(別経費の場合はその旨を明記。))などがあれば、それも記載してください。委託費総額の50%に相当する額を超える費目間流用については、その変更理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。)

2023年7月19日～7月20日にシンガポール国立大学(NUS)において「第14回シンガポール胃癌コンソーシアム(SGCC) 胃癌に対する JSPS-NUS 国際共同セミナー」を共同開催いたしました。本セミナーは胃癌の基礎研究を臨床応用へ発展させることを目的とし、シンガポールのみならず世界各国(韓国、台湾、日本、米国、イギリス)から研究医、基礎研究者が集結しました。第三国からの参加者として米国ヴァンダービルト大学医療センター外科教授の GOLDENRING 先生が基調講演を行い、胃癌の基礎研究の成果を発表されました。福島県立医科大学消化管外科学講座からも研究代表者を含む5名のパネリストと2名のポスター発表者が参加し、活発な議論がなされました。

- (2) 学術的価値(セミナーにより得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

ニボルマブ(抗 PD-1 抗体)などの免疫チェックポイント阻害薬(ICI)を用いたがん免疫療法は、一部の患者においては高い有効性が認められるものの、その割合は未だ限定的であり、さらなる治療を必要とするケースが多く存在します。本セミナーにおいて胃癌の ICI 治療効果を予測する新たなバイオマーカーに関する報告や研究代表者を筆頭とした切除不能進行・再発胃癌患者に対する複合がん免疫療法(ICI と放射線治療など他の治療法を併用する治療法)に関する報告など新たらしい知見が多数発表され学術的価値の高いセミナーとなりました。

- (3) 相手国との交流(両国の研究者が協力してセミナーを開催することによって得られた成果)

日本は従来よりアジアおよび世界の胃癌研究をリードしておりますが、シンガポールも 2008 年から National Research Foundation の Flagship Programme として SGCC を創設し胃癌の基礎研究から臨床研究に至るまで急速に成長を遂げています。今回 NUS-JSPS 国際共同セミナーを SGCC に組み込むことで、これまで以上に多くの研究医・研究者との交流が深まり、特にポスター発表時や Tea break/Lunch/conference dinner において日本とシンガポールの若手研究医・研究者同士の交流機会が提供され、将来的な日本とシンガポールの国際共同研究を見据えた人材交流が活発に行われました。

- (4) 社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

本セミナーでは日本、シンガポール、韓国、台湾、米国、イギリスなど異なる人種、異なる治療法(複合がん免疫療法を含む)の臨床的知見や基礎的知見が報告されましたが、それらの知見は日本を含むアジアのみならず世界の胃癌研究や胃癌治療に少なからずインパクトを与えるものであり、研究代表者らが実施している複合がん免疫療法の社会的な認知にも貢献するものと期待されます。今回のセミナーの成果は研究代表者の所属施設のホームページなどを介して広く情報発信していく予定です。

- (5) 若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取組、成果)

福島県立医科大学消化管外科学講座に所属する2名の大学院生が SGCC においてポスター発表を行いました。ポスター発表では、NUS の若手研究者や若手研究医と積極的なディスカッションが行われました。またポスター発表後には、NUS がん科学研究センターの若手研究者によるラボツアーも実施され、実際にシンガポ

ールの医学研究(基礎からトランスレーショナルレベル)を肌で感じる機会が提供されました。今後の学位取得や留学に向けて良い刺激となったようです。

(6) 将来発展可能性(本事業を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

本セミナー開催中に研究代表者らの発表を聴講した相手国側研究者との新たな共同研究の実施が仮決定しました。胃癌の転移に関する基礎研究の新たなテーマを NUS 付属病院血液腫瘍内科学講座と実施していく予定です。今後 NUS 付属病院血液腫瘍内科学講座の若手研究者が研究代表者の施設を訪問し、共同で実験を行っていく予定です。NUS と共同研究を実施することで高いレベルの胃癌研究を実施するとともに、相手国の若手研究者と日本側若手研究医の交流を促し、世界で通用する日本の若手研究医の育成にも貢献していきたいと考えています。

(7) その他(上記(2)～(6) 以外に得られた成果(論文発表等含む)があれば記載してください)

現在のところ論文等の成果はありません。